



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



Trilingual Program

東京大学グローバルリーダー育成プログラム

トライリンガル・プログラム 2023



TLPごあいさつ



多様性の海へ漕ぎ出すために

東京大学総長 藤井 輝夫

今、世界は大きく揺れ動いています。その秩序が脆いものであることを感じる人も多いことでしょう。これまで前提としていたさまざまな常識が大きく変化する今日だからこそ、私たちはアカデミアとして過去から未来に向けて長期を見渡す視野に立ち、大学が果たすべき役割をしっかりと意識しつつ、新しい社会の構築に取り組みなければなりません。東京大学では基本方針 UTokyo Compass「多様性の海へ：対話が創造する未来」を定めて、世界の多様な人々との対話の実践により、未来を築く卓越した人材を育成しています。トライリンガル・プログラムは、まさにこうした国際的な場に力強く漕ぎ出していく人材を育てるプログラムです。



世界に開かれた扉の鍵を手に入れよう

グローバルリーダー育成プログラム推進室長 福士 謙介

研ぎ澄まされた国際的な感覚をもった人材を養成するために、東京大学ではグローバルリーダー育成プログラム（GLP）が学部学生に提供されています。TLPはこのGLPの一環として、教養学部で前期課程の学生を対象に始まりました。国内だけではなく、国際的にも広大なネットワークをもつ東京大学に学び、さまざまな重要課題に触れることで、相手の言葉に耳を傾け、自分の思いを伝えることの大切さを感じる人は多いことでしょう。このような対話のために必要な高いコミュニケーション能力をTLPは可能にしてくれます。日本語と英語にくわえて、もうひとつの外国語の運用能力を集中的に鍛えるこのプログラムが、世界に開かれた扉の鍵を与えてくれるのです。



より深く、バランスよく世界をとらえる

グローバルコミュニケーション研究センター長 森井 裕一

既に習得している日本語と英語に加えて、東京大学では入学後に新しい外国語を学びます。トライリンガル・プログラム（TLP）では特にインテンシブにこの初修外国語を学び、短期間で高い運用能力を獲得することを目指しています。コミュニケーション能力を獲得するのが一つの目標であるのは当然ですが、さらにその言語の背景にある社会や文化、歴史を知り、世界の複雑さと多様性に触れることも重要です。国際的な活躍をするためには、複雑な対象をより広く深く理解し、多様な視点からバランス良く対象をとらえる能力が不可欠です。そのためにTLPの密度の高い授業に接して、世界で活躍できる新たな基盤を獲得されることを願ってやみません。

TLP(トライリンガル・プログラム)とは



Trilingual Program

東京大学トライリンガル・プログラム (TLP) は、グローバルリーダー育成プログラム (GLP) の一環として、2013年度に教養学部前期課程 (1・2年次) に発足しました。

この前期課程のTLPは、プログラムの履修を希望し、なおかつ入学時に一定レベルの英語力を有すると認められる学生 (上位一割程度) を対象とするもので、日本語と英語に加えてもう一つの外国語の運用能力を集中的に鍛えるために設けられています。当初は中国語のみの展開でしたが、2016年度からはドイツ語、フランス語、ロシア語、2018年度からは韓国朝鮮語、2019年度からはスペイン語でも展開された、今まさに成長しつつあるプログラムです。

各言語には定員枠が設けられていますが^{※1}、入学時にはTLPに参加していない学生にも Semester毎に参加するチャンスがあり、一定のレベルに達している学生にひろく開かれた制度となっています。履修期間は2年次のS Semester (第1 Semester) まで1年半で、修了要件を満たした履修生には、修了証が授与されます。

また、TLPでは、授業で学んだ言語の実践力を高め、また、言語の背景にある文化や習慣を理解するために、夏休みや春休みに現地で語学研修や学生交流などを行っています。^{※2}

言語や時期によって参加人数は異なりますが、10名から20名程度の選抜された学生が、企業等からの寄附による奨学金を受けて派遣されます。

グローバル化が急速に進んだ現代の世界においては、高度な英語力と少なくとも1つの外国語の運用能力が国際的に活躍する人材に求められることが多くなっています。このような人材の育成を目指してTLPはさらなる成長と飛躍を続けています。

※1 2023年度の各言語の定員枠は以下のとおり。

中国語60人、ドイツ語40人、フランス語40人、ロシア語20人、韓国朝鮮語20人、スペイン語40人程度。

※2 これまで、ドイツ語ではボンやケルン、フランス語ではパリ、アンジエ、ブリュッセル、リヨン、ロシア語ではサンクト・ペテルブルグ、イエレヴァン (アルメニア)、韓国朝鮮語ではソウル、スペイン語ではメキシコシティで実施しています。中国語では台湾、南京での研修に加え、後期課程生を対象にした北京上級研修プログラムを開催しています。

詳しくはTLPウェブサイトをご覧ください。

<http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/index.html>



ドイツ語

TLP授業の POINT

ドイツ語を通して新しい世界を開拓し、
日本とヨーロッパを繋げましょう！

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター ルーベン・ククリンスキ



[Profile]

もともとは中世ドイツ文学を専門としており、戦争をめぐる叙事詩の比較研究を行うために20年以上まえに来日しました。現在の研究テーマはジェンダー言語学と、戦争・トラウマ・文学の関係です。

TLPドイツ語では、たんに新たな外国語を学ぶだけではありません。目標となるのはむしろ、外国語をつうじて未知の地平や文化を開拓すること、そして自らの文化や生活環境にたいしても新たな視点を獲得することです。ドイツ語はそれにぴったりの言語です。ドイツ語は、EU内で母語としてもっとも広く使われており、英語と共通点が多いため、初学者にとってハードルが低い言語でもあります。地理的な位置関係からも、ドイツは昔からヨーロッパの中心を占めてきました。ドイツは、東から西、南から北へと至る交通の要所であり、これほど多くの隣国と接している国はヨーロッパには他にありません。現在のドイツは社会的な多様性に富んだ移民大国でもあり、戦争、気候変動、ジェンダー、移住といったアクチュアルな問題について活発な議論が交わされています。

社会の変化はつねに言語の変化をとともないます。TLPプログラムでは、そのような変化をライブで経験することができます。最も重要な変化は、目下のところ、文法的な性やジェン

ダーに関係するものです。そこでは、社会的な議論が、ドイツ語文法と密接に繋がっているのです。TLPドイツ語でみなさんが学ぶことは、最新の教材やドイツ語圏で実際に使われているリソースをもとに、一列・二列の必修授業で学んだ基本文法を絶えず更新していくことにほかなりません。

TLPドイツ語は週3回の授業から構成されており、そのうちの2回はドイツ語ネイティブの教員が、1回は日本語話者の教員が担当します。それ以外にもワークショップや国際研修が用意されており、ドイツの言葉や文化、人々と直接的に接することができます。ここ最近ではコロナウイルスの影響により、課外プログラムは制限付きでしか実施できませんでした。それだけに、このたび夏と春のドイツ研修を再開できる運びとなったことを嬉しく思っています。コロナにまつわる制約がドイツでも日本でも徐々に解除されるなか、恒例のクリスマスパーティーなど、親睦を深めるイベントもふたび実施できるようになることを願っています。

取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列*	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ(TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

TLPドイツ語研修

大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター 平松 英人



ケルン大学法学教室でのレクチャー



ケルン大学学生との交流会



西オーストラリア大学学生とのドイツ語による共同セミナーの様子

2016年度にスタートしたTLPドイツ語では、初年度からドイツにおける海外研修を夏と冬の計2回実施しています。毎回15名前後が参加し、TLPドイツ語履修者のほぼ全員に参加の機会が与えられてきました。現地ではドイツ語の集中的な訓練に加え、多彩な研修プログラムを通じた「ドイツで学ぶ」経験が、「ドイツ語を学ぶ」から「ドイツ語で学ぶ」へのハードルを越えていく力強い後押しとなってきました。2020年3月のケルン研修が新型コロナウイルスによる突然の感染症拡大で中止となった後も、国内でのオンライン主体による代替研修を毎年春休みと夏休みに2回実施することで、海外渡航は言うに及ばず、対面での授業実施も難しい中であって、学生が国際的な経験を積む機会を提供してきました。幸い2022年の夏休みには、2年半ぶりのドイツ渡航となるハンブルクで

の短期研修が実現しました。2023年以降は、3月にはケルンでの、8月にはミュンヘンでの研修が計画されており、履修生の期待に十分応えられる魅力的な研修プログラムとなっています。



ドイツ人学生との国際交流ワークショップでプレゼンテーションをする様子



ハンブルク日本国総領事公邸にて

受講生の声

学びに積極的な仲間と同じ環境で成長してきた経験が、学習全般の基盤になっています



TLPの制度は入学前から知っており、第二外国語を集中的に学ぶことには大きな関心がありました。中でもドイツ語はかっこいいから話してみたいと思っていたので、興味本位で参加することになりました。ドイツ語の必修授業に加えて週3コマで展開される授業は想像以上に忙しく感じたのをよく覚えています。特に15セメスターでは、大学生活に慣れない中で新しい言語を初めから習得することが慌ただしく感じられ苦労しました。しかしTLP履修生は学習意欲が高くドイツ語の技能も着実に伸ばしていたため、自分も置いていかれないように努力することができました。学びに積極的な仲間と同じ環境で成長して

きた経験は、ドイツ語だけでなく学習全般の基盤になっています。

最も印象に残っている出来事はやはり、2年の夏休みに行われたハンブルク研修旅行です。コロナ禍がなければ1年の夏と春にもドイツへ渡航する機会があったり、現地の大学を訪問できたりしたようでその点は残念ですが、それでも実際にドイツ語圏の国に足を踏み入れるという夢を叶えられたことに感動しました。約1週間の滞在は、フィルハーモニーの鑑賞や日本国総領事館の訪問など東大主催の研修だからこそできた体験に満ちた充実した期間でした。この研修がTLPの集大成であり授業は終わってしまいましたが、その後も検定試験と一緒に受けることや自主的なドイツ語勉強会を開くことで絆が絶えていません。

理科一類・2年 清水 賢佑 (2022年度)

このように貴重な機会が得られるTLPですが、英語学習にも力を入れないといけない点には注意が必要です。私はドイツ語の成績は問題なかったのですが、1Aセメスターの英語一列の成績が上位1割に達しなかったため修了のために外部試験を受ける必要がありました。結局、独学でTOEFL100点を超えることができたため無事修了できましたが、その際に改めて英語の重要性を実感しました。第二外国語を本格的に学ぼうとする者にとって間違いなく英語は欠かせないスキルです。

以上が私なりのTLPに対する思いです。このプログラムに身に着けたドイツ語を、そしてドイツ語を学んだという経験をこれからの学びにも役立てたいです！

フランス語

TLP授業の POINT

トライリンガル? 国際的な競争力?
まあそんなに肩に力を入れず、せっかくのプログラム
なので気楽にトライしてみましょう。

大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻 藤岡 俊博



[Profile]

フランスの現代哲学を中心に、ヨーロッパの思想史を研究しています。大学入学時になんとなく選んだフランス語が将来の仕事になるとは思いもよりませんでした。いまは教えながら学び続けることができる幸せを日々感じています。

私は2022年度からTLPフランス語を担当しています。TLPフランス語では、基礎科目である「一列」「二列」に加え、TLP用の「演習」および「初級インテンシヴ」を通じて集中的にフランス語を学習していきます。1年生の5 Semesterでフランス語の授業が週5コマあり、しかもTLPの3コマはフランス語をメインに使用して授業がおこなわれますので、とても大変に思えるかもしれません。ですが、今年1年間授業を担当した経験から言いますと、参加者のみなさんは熱心に学習に取り組み、短期間で飛躍的にフランス語の運用能力を向上させてきました。もちろんそれは各自の日々の努力のたまものですが、TLPの授業の特徴にもその理由があると思います。

TLPの授業では、文法事項を学習したうえでその応用を学ぶのではなく、フランス語を実際に「使ってみる」ことから出発します。4月のはじめから、さまざまな日常的な話題についてフランス語で理解し、フランス語で表現する練習を積み重ねていきます。教科書で扱われる題材も、映画や展覧会のポスター、料理のレシピ、求人広告、インターネットのサイトやSNSなど幅広く、しかも実際に存在するものが使われていますので、言語としてのフランス語にとどまらず、現在のフランスやフランス

語圏の文化や社会についても並行して知ることができます。

TLPで学ぶ内容は、フランス国民教育省認定の公式フランス語資格であるDELF（デルフ）・DALF（ダルフ）に準拠しています。DELF/DALFの試験では、読解や聞き取りだけでなく、文書を作成する問題も課されますので、TLPの授業でも、おもに課題と教員による添削を通じて、色々なタイプの文章を書く練習をおこないます。授業が進んでいくにつれて、「一列」「二列」の授業で得られる文法的な知識も段階的に使えるようになりますので、どんどん本格的な文章が書けるようになります。要するにTLPでは、「聴く・読む・話す・書く」という言語の必須能力を総合的に身に着けることができるのです。

また、授業とは別に、ネイティブの先生を中心におこなっている「フランス語でしゃべらんち」という企画もあります。お昼ごはんを食べながら、楽しくフランス語でおしゃべりできる機会ですので、気軽に参加してもらえたらと思います。

はじめて学ぶ外国語は、新しい世界につながるドアのようなものです。ぜひフランス語と一緒に新しい世界を放してみてください。

取得すべき単位数

(Semesterごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	S Semester	A Semester	S Semester
基礎科目 一列・二列*	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

TLPフランス語研修

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 寺田 真彦



アンジェで世界中の学生と友達に

TLPフランス語の海外研修では、フランス語はもとより英語や日本語を意識的・多層的に用いる工夫を凝らしています。単なる言語習得ではなく、フランスの大学生との交流や高等研究機関・省庁で

のレクチャーおよび発表を通じて、社会生活、研究、行政といった幅広い場面での三言語使用の機会を設けています。

たとえば、同世代の大学生との交流では、日本語を学ぶ仏学生と交歓会を行うだけでなく、同じテーマでの発表やディベートで日仏両言語での意見交換を行います。また日本語を学ぶ授業に参加して「外から見た日本」を実感し、母語として使われる日本語に多角的な視点を持てるようにしています。一方で研究所や省庁では高いキャリアを持つ研究者や行政官と対話を持つことで、質の高い言語を用いる重要性を実感できるようにしています。

高いレベルの言語使用を通じて、将来さまざまな分野で活躍するTLP修了生の期待に応えられる海外研修となっています。



フランスのテーブル・サッカーに夢中!



ルーヴル美術館訪問



ブリュッセル自由大学での発表



アンジェ・西カトリック大学にて

受講生の声

TLPには言語を学ぶことの魅力がたくさん詰まっていました



外国語を学ぶことは本当に好奇心を掻き立てられるものです。旅行好きな私にとって、現地の言葉を知ることはその地域の歴史や文化、人々の思考の仕方に一歩近づけてくれるような営みです。

私がTLPを履修したのは、フランス語の美しい響きへの憧れと、せっかくならしっかり習得したかったという理由からでした。実際に受講してみると、初回からフランス語が雨のように降り注いだので驚きました。まさに「インテンシヴ」と言う名に相応しい授業でした。しかし、フランス語を「教えられていた」という感覚はむ

しろなく、会話や作文をするツールとしてフランス語を主体的に使っていくうちに、気づいたら身に付いているという、そんな不思議な感覚を抱きました。拙いフランス語だったとしても、頭を使って捻り出した分だけ成長に繋がっていったように思います。授業前には先生がフランスの音楽を流していて、時にはクイズやゲーム形式で、授業はテンポ良く楽しく進められていきました。また、勉強熱心なクラスメイトたちが身近にいたことで、フランス語を継続するモチベーションはますます高まりました。

幸いなことに、2年の夏にはアンジェ市で研修を行うことができました。世界中から集まった学生たちとフランス語を学び、一緒に観光すること

文科二類・2年 岸田 玲奈 (2022年度)

を通して、想像以上に仲を深めることができました。ホームステイ先での学びも多く、日本語はもちろんのこと英語を通じない環境の中、生活に根ざしたフランス語にどっぷり浸かることができました。街中を探検する時もフランス語でコミュニケーションを取り、自力で目的地に辿り着いた時の喜びは格別なものでした。通常の旅行とは違い、現地の言葉を本気で学んだからこそ得られる経験がこのフランス研修の醍醐味だと思います。これからもフランス語を学び続けていきたいです。

TLPを通して、フランス語のみならずフランスの人々や文化の魅力に触れることができました。ここで培われた語学力と経験はきっと一生の糧になると思います。

中国語

TLP授業の POINT

これまでに積み重ねてきた知性、教養、表現力が
中国語で発揮される授業が展開されています。

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター 白 春花



[Profile]

人はどのように文を処理しているのか、特にバイリンガル話者がどのように第三言語を習得し、文を処理しているのか、実験心理学的手法を用いて調査しています。

私がTLPの中国語教育に携わってすでに五年目になりました。この五年間では、主に一二年生を対象とした授業をしてきましたが、後期課程の教育にも携わりました。授業中は、中国語を話すことより中国語で話すこと、つまり中国語の運用能力を伸ばすことに重点を置いています。

一年生は、発音を習っている時期から自分の意思を中国語で発信しようとする学生が多いです。それが授業中における鋭い質問や会話、作文の中で伝わってきます。そして、一年次のAセマスターからペアを組んで中国語で問題解決に挑戦したり、グループでインタビューにチャレンジしたりします。これは、まさに、これまでに積み重ねてきた知性や教養、日本語なり英語なりでの表現力といった、彼らがすでに持っているもので、中国語を道具とした高い表現力が発揮されたのであろうと多大に評価しています。

後期課程では、私は、上級中国語および「東アジア教養学」の授業を担当しています。上級中国語では、中国語で書かれた新聞記事やニュースを講読し、受講生に中国語で作文、

発表あるいはディベートしてもらったりします。私の専門領域は「心理言語学」ですので、中国語で行うこの講義では、言語の処理はどういう仕組みからなるのか、また、バイリンガルあるいはトライリンガル話者はどのように文を処理しているのか、という問いから始まり、それに関する最先端の研究成果を学生に中国語で発表してもらうことで、中国語で高度な専門知識を身につけるだけでなく、適宜議論できることを目標としています。さらに、心理言語学で現在主に使われている実験手法を紹介したり、実験室を見学したり、データ収集がどのように行われているのか、具体的にイメージできるようにしています。最後に、今まで身につけてきた知識を自分自身のことと照らし合わせながら、実験案を提出させています。そこで、私が驚いたのは、受講生のみなさんが、実際に中国語で話すときに、日本語より英語の影響が多く現れている原因について、三つの言語の統語的な特徴の類似性の観点からレポートをまとめたことです。私はこれからも、こうした学生の可能性に期待しています。

取得すべき単位数

(セマスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているみなされ新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年				2年	
	文科生		理科生		文科生	理科生
	Sセマスター	Aセマスター	Sセマスター	Aセマスター	Sセマスター	Sセマスター
基礎科目 一列・二列	4	2	4	2	—	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	—	—	—	—
総合科目 初級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4	4	—	—
総合科目 初級表現演習 (TLP用) ※1	—	—	(2)	(2)	—	—
総合科目 中級インテンシヴ (TLP用)	—	—	—	—	4	4
総合科目 中級演習 (TLP用) ※2	—	—	—	—	2	(2)
国際研修 サマースクール ※3	—	—	—	—	(2)	(2)
取得すべき単位数 ※3	10	8	8	6	6	4

※1 1年理科生の初級表現演習は任意選択であり、取得すべき単位数は文系より合計4単位少ない

※2 2年理科生の中級演習は任意選択であり、取得すべき単位数は文系より合計2単位少ない

※3 国際研修およびサマースクールは任意選択

TLP中国語研修

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター 李彦銘

新型コロナウイルスの大流行によって、南京研修は3年連続でオンライン開催となりました。前例が（おそらく今後も）ないことなので、オンラインならではの発見や学生・教員の努力を記録して報告したいと思います。

まず語学学習におけるメリットですが、対面よりは聞き取りがとりわけしやすい、そして質問がしやすい、写真やホームページなどを共有・活用しや

すい点が挙げられるなど、一般的なオンライン授業と同じ利点がありました。また、中国語の授業が午前中に集中していたため、学生によっては午後や夜の時間を利用して部活またはアルバイトと両立できたそうです。

ただ現地開催の研修に及ばない点はやはり多々ありました。参加者の確保が最初の困難というべきでしょうか。実際には2021年と2022年ともに参加者が12名しかおらず、定員の20名より大幅に下回りました。それでも南京大学側の手厚い対応を受け、ふたクラスに分けて授業の実施ができました。個人的な感想としては、ひとクラス6人という極小人数になった分、学習効果が高くなりました。三週間に渡る研修中、学生もずっと高い学習意欲を保つことができたという印象がありました。

ほかにもいろいろ試みがありました。体を動かす機会を増やす要望に応じて2021年度の研修は午後には太極拳の授業を追加してもらいました。南京大学の学生の考案でライブ配信の形でキャンパスや南京市内の案内も実施されました。最後の2022年度は、東大側が4月から対面授業に戻ったこともあり、午後の時間帯の活動を大きく変えました。例年では南京大学講師による専門性の高い中国語講義が複数回に開催されてしまいましたが、それを取りやめにし、代わりに東大生が自主的に企画した活動が行われました。漢詩勉強会や映画鑑賞会、湯島聖堂など中国と縁がある場所を回る会など、現地開催に及ばない程度ですが、学生間の交流と親睦が深められました。一方、南京大学の学生と高校生との交流はzoom越で数回開催されました。

来年は南京で実施を期待しております。さまざまな環境が急激に変化するなか、やはり自ら現地に赴き、肌で感じられる現地研修のほうが鋭い感覚の訓練と問題意識の発見には適していると思います。



南京大学構内の黒板・卒業記念の落書き



2021年修了式&「漢語秀」プログラム



2022年度の始業式



受講生の声

素晴らしい友と充実した語学ライフを享受

こんにちは、工学部社会基盤学科に内定した松本翔龍と申します。私は中国が身近な存在であるという理由で、第二外国語は中国語を選択しました。日中英の言語を自由に使えるようになりたかったので、「無謀だけどできたらいいな」と軽い気持ちでTLP中国語に申し込みました。結果、駒場で受けた数々の中国語の授業や国際交流活動でたくさん刺激を受け、良い経験になりました。

中国語の文法は英語と似ていて簡単である反面、漢字の学習に苦労しました。TLPの学生は

非常に優秀で、語学力の差に悲観することはよくありましたが、お互い助け合って切磋琢磨して学習することができました。また、私は昔から洋楽が好きで、海外経験豊富なTLP生とは気が合いとても仲良くなれました。このような素晴らしい環境に運良く恵まれたことに感謝しています。

振り返れば私の語学ライフは非常に充実していたと思います。オンライン開催でしたが、長期休みを利用して台湾研修・南京研修に参加して学習を深めました。表現力が格段に向上しただけでなく、中国文化や歴史に対する理解がより一層深まりました。私の前期教養を一言で言い換えるとするならば、迷わず中国語と答えるで

理科二類・2年 松本翔龍 (2022年度)

しょう。

中国語学習は始まったばかりです。今まで習ったことを忘れず、TLP中国語で出会った人々との縁を大切にして、中国語の学習を継続させていきたいです。私の代は現地への渡航が叶わなかったため、いつか自分で機会を作って中国へ赴き、学びたいと強く思います。

最後に、新型コロナウイルスの感染状況が一進一退する難しい状況の中、中国語を教え、学生のために講演会や交流会を用意してTLPをより充実したものになろうと日々尽力された先生方に感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

ロシア語

TLP授業の POINT

ロシア語は、その覚えることの多さから特に最初の初級段階が重要です。皆さんの学習の牽引役でもあり、サポーターでもあります。

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 鳥山 祐介



[Profile]

ロシア文学、文化史を研究しています。ソ連崩壊でロシアがメディアで盛んに話題になっていた時期に真剣にロシアに関心を持ち始めたのですが、これが途方もなく取り組み甲斐のあるテーマであったことを年を経るごとに実感しています。

駒場に赴任して以来、TLPの授業は毎年受け持ってきました。初級文法の授業で用いる教科書や教える内容は他のクラスと同じなのですが、教室に漂う独特の緊張感からは毎回楽しい刺激を受けてきました。全体の時間割としてはTLP生は独自のものに基づいて授業を履修します（1年次のSセメスターでは文科生が週5コマ、理科生は4コマ、Aセメスターではそれぞれ4コマ、3コマとなります）。特にネイティブ教員による会話の授業が多く課されているため、読み書きと口頭コミュニケーションの双方における高い能力を最初の段階から追求することになります。2年次ではSセメスターで全員が3コマ履修となり、基礎文法の知識の確立と、会話なども含めた総合力の向上を図ります。2年次Aセメスターになると、辞書さえあれば専門的な内容の論文、メディア記事、文学作品なども読めるレベルになります。コロナ禍に続き、ロシアのウクライナへ

の侵略戦争の開始に伴って方向転換を強いられた海外研修も、ここへきてようやく再開となりました。

ロシアという国、そしてそこに暮らす人々について知ることが世界にとっても日本にとっても長期的な重要課題となる中で、ロシア語の知識は世界を幅広い視野で見るときの貴重な手段となります。文理を問わず、様々な専門分野でロシア語を駆使できる人が社会の構成員として活躍することが、今後の日本社会およびその外に生きる人々にとって重要であることは間違いありません。もちろん、そうしたことはロシア語で発信される情報を無条件に信頼することと決してイコールではありません。ロシア語と同時に英語についても高い能力を追求し、その積極的な運用を促すというTLPロシア語のコンセプトは、ネット時代の適切なメディア・リテラシーという観点からもきわめて大きな意味を持っています。

取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているときみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用) ※	2	2	—
総合科目 初級・中級インテンシヴ(TLP用)	4	4	4
総合科目 ロシア語上級	—	—	2
取得すべき単位数	10	8	6

※ 理科生の演習は任意選択であり、取得すべき単位数は合計4単位少ない

TLPロシア語研修

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 鳥山 祐介



イエレヴァン大学でのロシア語研修

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の影響により、例年ロシアのサンクトペテルブルクで行っていた研修の継続が難しい状況となったため、TLPロシア語は新たな行き先を探すことを余儀なくされました。ロシア語の教育体制が整っていることを第一の条件としてさまざまな候補を検討した結果、最終的に2022年度にはアルメニア共和国のイエレヴァン大学で研修を実施することになりました。

「文明の十字路」と呼ばれるコーカサスに位置し、独自の文化的アイデンティティを持ちながら、近代以降はロシアとも深い関係にあったという歴史的経緯から今もロシア語が広く通じるアルメニア。この地でロシア語を学ぶことは、国家と言語、文化との一筋縄ではいかない関係を肌で感じる機会にもなるはず。研修ではロシア語の授業に加え、現地の学生との交流やロシア語を使った発表の場、さらに

アルメニアの文化や自然に触れる場も設けられています。ロシア語を学ぶことによって自分の世界が広がっていく様を実感することも研修の目的の一つです。



マテナダラン（古文書館）訪問



エチミアジン訪問



ロシア・アルメニア大学での発表



サグモサヴァンク修道院に向かう

受講生の声

手厚いサポートが受けられるTLPコースは語学習得に大変有効でした



ロシア語を選んだのは、趣味とするクラシック音楽の中で特にシヨスタコーヴィチやプロコフィエフなどロシア圏の作曲家に興味を持っていたから。TLPを修了した今では、辞書を片手にロシア音楽に関する文章を原語で読むことが余暇の楽しみの一つとなっています。

ロシア語は活用の多さや特殊な文法規則などが厄介で、私自身はかなり習得に苦労しましたし、今でも単語を覚えることは苦手です。しかしネイティブの講師による会話・作文の指導や2年次からの論文購読授業など、TLPでは教育体制が充実していたため、一つ一つ着実にロシア語の能力を伸ばすことができたという実感は強く持っています。またロシア語はTLP履修者が10

人前後と少なめであるため肌理細やかな語学指導を受けることができ、少人数で切磋琢磨しながら学習を続けられました。授業後に昼食を食べながら同期たちとロシアの政治問題や文化について語り合ったことも、前期教養課程のかけがえない思い出の一つです。

ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、海外研修の滞在先は旧ソ連圏のカフカスの小国アルメニアになりました。独立から30年余が経過し公用語はアルメニア語のみである同国ですが、大学などの学術機関のみならず巷間の生活でも未だにロシア語がよく使われています。ロシア語のみで開講される授業、現地学生やガイドやスーパーの店員との会話など、ロシア語で考え話す二週間の集中的な実践を積むことができました。また授業後のエクスカージョンでは

理科一類・2年 江波 駿介 (2022年度)

未知の国アルメニアの苦難の歴史や豊かな伝統文化などについて学び、異文化の価値観や生活観を体感できたことも研修の貴重な実りの一つです。感染症蔓延と軍事侵攻という度重なる障害にもかかわらず語学研修を実施して下さった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

苦しい思いをすることもありますが、語学に興味を持つ人であればTLPで外国語を学ぶ1年半は必ずや充実したものになるでしょう。私は2年次に理科一類から文転して後期教養学部に進学しましたが、TLPを通じて言葉と戯れることの楽しさを再確認したことは間違いなく私の決断に大きな影響を与えました。貴重な経験を求めて、チャンスがある人は是非受講してみることをお勧めします。

韓国朝鮮語

TLP授業の POINT

言葉がうまくなることはもちろんですが、
言葉を使って多様な人々とコミュニケーションし、
協働する力を養うことが目標です。

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 三ツ井 崇



[Profile]

朝鮮近現代史の専門で、とくに19世紀後半以降現代までの言語や文化の問題を政治史・社会史と関連づけて考えています。例えば、「韓流」以前の朝鮮半島の文化がどのように形成、受容されてきたかを調べることにより、現代の交流と葛藤の意味が見えてきます。

今日、日本と大韓民国（韓国）・朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）との関係は、交流のないしは葛藤の局面にあり、しかも朝鮮半島情勢は世界規模の関心事となっています。日韓間の人の往来も普通になり、韓国の歌や映画も身近なものになりました。けれども、日本で韓国朝鮮語ができる人はまだまだ少数です。

一方、昨今の東アジア情勢を見ると、地域の持続的発展を考えていく際には、グローバルな視点とともに、朝鮮半島の持つローカルな特性に対する深い理解が求められます。TLP韓国朝鮮語は、一定レベルの英語能力を持つ学生が1年次、2年次に集中的に韓国朝鮮語を学習することによって、高度な韓国朝鮮語能力を身につけるとともに、日本と朝鮮半

島が位置する東アジア地域を足場に、グローバルな課題に取り組む人材となることを目的としています。

TLP韓国朝鮮語では、基礎科目（必修）の初修韓国朝鮮語一列、二列はクラスごとの通常授業を受講します。それ以外にTLP用の演習と初級インテンシヴ2コマ、計3コマを受講し、より高度な能力を身につけます。2年次の5セメスターでもTLP用の演習と中級インテンシヴ2コマを受講した後、夏休みを利用してソウル大学で語学研修を行います（3週間）。語学研修では語学学習のほかにソウル大生とともにフィールド・ワークなどの現地体験も行いますので、韓国朝鮮語を実際に使いつつ、韓国の社会や文化について学ぶ機会となります。



受講生の 声

アットホームな雰囲気、楽しく韓国語を身につけることができました

私はもともと、当時好きだったK-POPアイドルの会話や歌が少しでも理解できたら嬉しいと思い韓国語を選択しました。

その後、韓国語を勉強していくうちに韓国語の魅力に引き込まれTLPに編入することになりました。

TLPの授業は、普通の必修の授業よりもレベルの高い学習をすることができるので、必修の授業内容はTLPに比べて簡単に感じましたし試験も良い成績を取ることができました。進学振り分けで高得点を狙っていた私としてはTLPの授業は大変有意義でした。もちろん、そういった

打算なことだけでなく、純粋にレベルの高い授業を受けて韓国語について詳しくなり充実感も感じることができました。その大きな理由として、人数が少なく学生同士の仲がよく、そして先生との距離が近かったことが挙げられると思います。人数が少ない分あてられる回数も多いため、オンラインにも関わらず授業に集中して参加することができ、課題は一人一人細かい添削までしていただきました。TLP以外の外国語の授業でこういった経験はなかなかできないと思います。また、先生がK-POPの曲に出てくる韓国語の表現を紹介してくださったのは今でも印象に残っています。

理科二類・2年 村上 友哉（2021年度）

2年の5セメスターでTLPは週に3コマの授業がありましたが、2Sは理系でも必修科目が少ないので、TLPの負担がきつと感じることはほとんどありませんでした。課題も毎回出ませんでしたし、課題の添削を毎回丁寧にしてくださるのでこちらもやる気を持って課題に取り組むことができました。

3年生になった今、残念ながら以前ほど韓国語の勉強はできていません。専攻が決まっていない、1、2年生の時期だからこそ、第2外国語の勉強に多くの時間を割くことができ、そして、TLPの充実した授業を受けられてとても良い経験になりました。

取得すべき単位数

（セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない）

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列 ^{※1}	4	2	—
総合科目 演習（TLP用） ^{※2}	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ（TLP用）	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※1 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

※2 理科生の演習は任意選択であり、取得すべき単位数は合計6単位少ない



文化体験

スペイン語

TLP授業の
POINT

TLPでの集中的・継続的なスペイン語学習は、日本の外へとつながる、予想もしなかったような道すじをひらいてくれます。

大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻 棚瀬 あずさ



[Profile]

ラテンアメリカの文学を研究しています。マドリッドに5年間留学していました。はじめてスペイン語圏に興味を持ったのは、14歳のとき、ピアソラを聴いたことから。

2019年からTLPに加わったスペイン語は、征服者たちの言語として新大陸に広まり、いまでは4億人以上の母語話者をもつようになりました。米国にヒスパニックやラティーノと呼ばれる人々が増加していることから、スペイン語の歌詞を取り入れたポップミュージックが世界的にヒットすることも増えています。じつに広範囲にわたるスペイン語圏のなかでは、語彙や発音、そして時には動詞の活用においてさえ、各地の文化と密着したかたちで異なるさまざまな「スペイン語」が用いられています。TLPでの学習を通じて、そんなスペイン語の多様性に触れ、世界の広さ、文化の奥深さを感じてみませんか？

TLP生は、必修スペイン語に加えて、「TLP演習」と「TLPインテンシヴ」（原則としてネイティブ教員が担当）の授業を週計3コマ受講します。必修科目では文法や表現の基礎を、TLP科目ではいっそうの実践力や、文化や歴

史に踏みこむ高度な知識を、身につけられます。2年生の夏休みには国外研修を行ない（これまではメキシコへ行ってきました）、その土地の空気を吸いながら、現地の大学生と交流したりしてスペイン語漬けの生活を送ります。

語学はそこまで得意じゃないし……という方もいるかもしれません。でも、いま駒場でスペイン語を教え、研究のために日々外国語を使っている私も、むかし駒場生だったころには、語学が得意だなんてまったく思っていなかったんです。話すのが好きな人。書くこと、読むことのほうが好きな人。いろんな人がいます。集中的・継続的に学んでいくと、自分なりの外国語とのつきあいかたが見えてきて、日本の外へとつながる、予想もしなかったような道すじをひらいてくれる。外国語に向きあうことにはそんな魅力があると思いますし、TLPはそのような機会を与えてくれる素晴らしいプログラムだと確信しています。



スペイン・サラマンカのマヨール広場



植民地時代の教会が多く残る
ニカラグア・レオンの街並み



2022年のメキシコ研修にて

取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているときみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列※	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ(TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

後期TLPについて

後期TLPは、中国語（日英中のトライリンガル）のみ2015年度から実施してきましたが、2020年度からは、「東アジア教養学」プログラムにアップグレードして新規開設しました。これは、前期TLP修了者と同等（もしくはそれ以上）の言語スキルを持つ学生を対象に、「東アジア発のリベラルアーツ」形成を旨とする北京大学とのジョイントプログラムです。北京大学との交換留学を組み込み、言語的背景の異なる学生がいっしょに同じテキストを読みながら、問いを開く学問を築くことを目指しています。

「東アジア教養学」では、英語、中国語、日本語を使用言語とする授業を常にか開講しています。所定単位を取得することによって、「東アジア教養学」の修了資格を得ることができます。また、共通外国語では、中国語の上級会話、上級講読といった授業が、前期TLP修了生もしくはそれと同等以上のレベルを有する学生全体を対象にか開講されていて、中国語の更なるブラッシュアップをめざす学生の誰もが履修できるように設計されています。

なお、後期TLPは2020年度より東アジア藝文書院（EAA）が運営主体となり、さらにプログラムの内容を発展させています。



TLPの英語

トライリンガルの一翼を担う英語ですが、その教育プログラムは英語一列、英語二列、総合科目L系列で構成されています。TLPに特化したクラスはありませんが、TLP履修生は英語のみで授業を行うクラスで英語一列を受講します。

英語一列（必修）：教養英語

教養学部英語部会が英語学習のために作成した『教養英語読本Ⅰ・Ⅱ』と、これに関連したリスニング教材を使用して行う授業です。文科生、理科生を問わず大学生の知的関心に応じた高度で分野横断的な内容を英語で理解する力を養います。授業は習熟度別クラスで行われます。TLP履修生は、内容理解の他に作文やディスカッションなどの発展的作業をすべて英語で行う20名程度のクラスで授業を受けます。

英語二列（必修）：ALESS、ALESА、FLOW

ALESS、ALESА、FLOWは発信力に重点を置く科目です。15名程度の少人数クラスで、英語だけで授業を行います。

ALESS（Active Learning of English for Science Students）では、理科生が、自ら設計した実験を行って、その結果に基づいて科学論文を書くことを学びます。一方、ALESА（Active Learning of English for Students of the Arts）では、文科生が、先行文献を調べ、それを適切な形で援用しながら説得力のある人文・社会科学系の論文を書くことを学びます。

FLOW（Fluency-Oriented Workshop）は、研究成果について英語で口頭発表したり、論理的な議論を展開したりできるような流暢なスピーキング力を鍛える授業です。自己診断に基づく習熟度別クラス編成を採用しています。

総合科目L系列（選択必修）

中級クラスと上級クラスが設けられています。多彩な内容のクラスから各自が選択することができますが、「英語上級」は20名程度のクラスで、英語圏の大学で専門科目の授業を受講できるレベルの英語力を念頭に置いた授業を行います。





Trilingual Program

©2023 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属 グローバルコミュニケーション研究センター